

令和6年度 日南市立細田小学校 自己評価書 および 学校運営協議会評価書

学校経営ビジョン

全職員が一体となってチームワークを深め、家庭、地域、関係機関と連携・協働し、児童一人一人の将来を見据えた学習指導、生徒指導、特別支援教育を推進することで、教育目標の具現化を図る。

評価項目	主な達成手段	評価基準	対象	評価値 (満点4)	学校の考察	学校運営協議会委員の意見
学びに向かう力の育成(知)	◎1 「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善	学力が身に付いているという職員の認識	学校	3.11	学力に関する児童、保護者の認識は、大変よい結果となっている。しかし、個人差もあり、特に語彙力の小さなや体験の乏しさが学力の低下につながっていると考えられる児童も見られるため、今後はその改善のために読書活動や体験活動に力を入れていく必要がある。	家庭では、読書をする姿がなかなか見られないで言葉を知らない・覚えない。
		授業が分かりやすいと思う児童の認識	児童	3.56		
		学力が身に付いているという保護者の認識	保護者	3.46		
		主題研究の取組状況	学校	3.33		
	◎2 読書活動の充実	タブレットの操作に慣れているという児童の認識	児童	3.72	ICT機器を活用しながら個別最適な学びや協働的な学びの在り方を探る研究授業を各自が行った。特に教育支援アプローチ「ロロノーノ」を使い、思考力を高めるためのクイズツールの活用について研究を深めた。11月に行なわれた市教委の支援訪問では、低学年からICT機器を使いこなしていることを称賛された。	本の貸し出し冊数はクリアしているが、借りても読まない子どももいる。少ない冊数でもよいので、中身をしっかり読み取ってほしい。
		情報端末機器の扱いに慣れているという保護者の認識	保護者	3.23		
		読書活動が定着しているという認識	学校	3.00		
	◎3 キャリア教育の実践・推進	学校図書館の貸し出し冊数状況	児童	3.30	学校の図書室へ向けての興味・関心を高めていく必要がある。また、週1回程度、学校で読書をする時間を設定し、読書の習慣を付けていくことも効果があると考える。さらに、保護者の家庭での読書習慣に対する認識を高める必要から、本年度より始まりました県立図書館のひなた電子図書を活用し、週末はタブレットを持ち帰って読書することも進めていく。	幼少期に家庭で親が本を読み聞かせることも減っており、それも語彙が少ない原因ではないか。
		本や新聞などの活字を読む習慣ができるという認識	保護者	2.69		
		キャリア教育の取組状況	学校	3.11		
豊かな心と社会性の育成(徳)	◎1 基本的な生活習慣の形成と規範意識の確立	基本的な生活習慣等が定着しているという認識	学校	3.50	児童は学校の顔と家庭の顔に隔たりがあることが考えられる。学校での取組が家庭でも生かされるような取組にしていく必要がある。	放課後子ども教室に来る時、子ども達は元気なあいさつをして入ってくる。
		進んであいさつをしている児童の認識	児童	3.53		
		学校のきまりを守っているという児童の認識	児童	3.53		
		基本的な生活習慣が定着しているという保護者の認識	保護者	2.85		
	◎2 思いやの心の醸成	思いやりの心を醸成する活動に努めたかという認識	学校	3.30	児童は落ち込んでいる態度で学校生活を送っている。今後でもあいさつやきまりを守ることについては、発達の段階に合わせて、各学級で指導を繰り返していく。	相手を思いやる心が少しかけている気がする。友達のよいところより悪いところを言ってくる子どもが多い。保護者にも友達の悪いところを報告している。
		友達と助け合い、思いやりのある行動をしているという児童の認識	児童	3.63		
		友達と助け合い、思いやりのある行動をしているという保護者の認識	保護者	3.08		
	◎3 環境美化活動の充実	清掃時間の児童の取組状況	学校	3.80	下級生に優しく接することやお互いのよさを認め合うこと、教師が児童の行動を称賛していくことで細田小の「優しい風土」が継続されるようにしていく。	放課後子ども教室では、子ども達はよく一緒に遊んでいる。友達の悪いことの言いつけを聞くこともあるが、一緒に遊ぶということは仲のよい証拠である。
		清掃時間の児童の認識	児童	3.68		
		環境美化の習慣が身に付いているという保護者の認識	保護者	2.77		
体力向上と健康安全意識の育成(体)	◎1 健康や食に対する意識の向上	健康・食育指導の実施状況	学校	3.67	児童の生活習慣については、定期的に行っている「さわやかチェック」の「朝ご飯」の項目では、ほぼ全ての児童が朝ご飯を食べているようになっており、改善が見られた。9月の参観日で親子で朝ご飯づくりに挑戦したり、給食の時間等に栄養教諭を中心とした食育の指導を行ってきたことが改善につながったと考えられる。ただし、本年度はさわやかチェックの「睡眠」の項目で課題のある児童が多め見られるため、改善に向けて工夫していく必要がある。	家庭で自分用のスマホやタブレットを持つのが当たり前になっており、Youtubeなどをずっと観ている子どもも多い。家庭では、夜は部屋を少し暗くしたり、ブルーライトを关したりして起きるが、兄弟でも寝る時間が違うので、下の子の方が遅くまで起きていることもある。
		生活習慣の改善	児童	3.00		
		早寝早起き朝ごはん等ができるという保護者の認識	保護者	2.69		
	◎2 発達や成長を支える基盤となる体力向上	スクールスポーツプランが機能しているという認識	学校	3.22	体力が向上したという児童の認識	体力を高める運動として、体育学習時の最初に行なう「わくわく運動」や、朝の始業前の「体力パワーアップメニュー」に取り組んできた。また、天気のよい日の昼休みには、元気よく外で遊ぶ児童の姿も見られる。体力テストの結果を見ても、A判定の児童が多く見られるから、体力に合わせて体力を向上を図っている。
		体力が向上したという児童の認識	児童	3.21		
		体力の向上の習慣ができるという保護者の認識	保護者	2.69		
	◎3 安全や防災に関する、命を守る能力・態度の育成	安全指導の取組状況	学校	3.60	本年度も、より現実的で実践的な避難訓練を行なった。安全な行動の仕方に関する児童の評価値が非常に高いことから、多くの児童が災害時の行動を理解していると考えられる。今後も「いのちを守る教育」を継続していく。	参観日の「食の指導」は大変良かった。子どもも保護者も勉強になった。
		安全な行動の仕方が身に付いているという児童の認識	児童	3.76		
		安全な行動の仕方が身に付いているという保護者の認識	保護者	3.15		
学校づくりともに推進する	◎1 家庭・地域との積極的な協働・連携	地域の素材・人材の積極的な活用に努めているという認識	学校	3.22	本年度も地域ボランティア活動や、交流グラウンドゴルフ活動といった、地域との連携や地域人材を活用した学習を行なった。児童と保護者の「地域の行事に参加できる」という認識が低いという結果も踏まえ、次年度は教育課程内に地域に出て行けるような内容を検討していく必要がある。	地域の行事(細田プロジェクトなど)は、年々参加人数が減っている。子ども達にも話合いに参加してほしいが、時間的に難しい。
		地域の行事に参加できているという児童の認識	児童	2.63		
		地域の行事に参加できているという保護者の認識	保護者	2.62		
	◎2 家庭や地域との情報共有の推進	学級通信やHPを通じて情報発信に努めているという認識	学校	3.60	参観日の出席率は、12月まで85%となっている。ただ、世帯数が減ったことや兄弟姉妹関係もあり、授業参観者がいない時間やすっと1人しか参観者がいない学級もあった。	保護者も出勤が多く、地域の行事になかなか参加できない。
		参観日や懇談の保護者の出席状況	保護者	3.40		
	◎3 教育課程の工夫改善	教育課程の改善に日々努めているという教師の認識	学校	3.30	学校運営協議会に全職員が参加し、委員の声をダイレクトに教育課程に反映できるようにしている。	授業に地域の人材を活用することができるので、必要に応じて、学校から地域コーディネーターにボランティアの要請があると動きやすい。
		家庭や地域の声を生かした教育課程が作成されている保護者の認識	その他	3.00		

次年度の方針

【学びに向かう力の育成(知)】主体的・対話的で深い学びの視点で授業を改善し、児童の書く力・読む力を高める具体的な手立てを工夫する。また、児童の読書への興味・関心を高め、家庭との連携も図りながら読書活動の充実を図る。

【豊かな心と社会性の育成(徳)】小規模校のよさを生かし、児童にポジティブな行動支援を積み重ねていくことで、細田小の「優しい風土」が校風として形成されていくようにする。また、児童委員会活動の見直し・改善を図り、児童の自主的・自発的活動を推進する。

【体力向上と健康安全意識の育成(体)】健康・食に対する意識の高い児童の育成を目指し、授業改善や具体的な手立てを一層工夫する。また、平時から児童の安全意識を高め「いのちを守る教育」の充実を図るとともに、現実的・実践的な避難訓練を実施する。

【地域とともにある学校づくり推進】コアカリキュラム「細田小ふるさと学習」を軸に地域との交流を推進し、地域人材や地域素材の積極的な活用を図ることで、地域と共にある学校づくりに努める。